令和８年度

上官保育園自己評価

実施日：令和８年８月12日

資料　「韓国オリニジップ自己評価チェックリスト」

韓国「2019オリニジップ評価マニュアル」は、2019年に韓国で策定された日本の保育所に相当するオリニジップという保育施設の第三者評価マニュアルである。それに記載されている評価項目は具体的な保育内容、カリキュラム、保育者の具体的援助、環境構成、安全教育と事故予防等多くの評価項目を設定し、保育の質向上を図っている。また、全オリニジップを対象として義務化し、無償で実施している。また評価後の事後支援も徹底していることに対し、日本では第三者評価や自己評価を努力義務とされている。子どもの安全管理については、韓国に学ぶことが多いと考えるので、下記にその自己評価チェックリストを引用する。

表　「韓国オリニジップ自己評価チェックリスト」（翻訳　丹羽・清水・吉田）

1.領域　保育課程及び相互作用

1-1	乳幼児権利尊重			
	評価項目	Yes	No	無回答
1	保育者は乳幼児を尊重する			
	① 保育者は乳幼児の個別的要求や質問を注意深く聞いて、適切に反応する。	26		
	② 保育者は乳幼児が理解できる内容で目を合わせて話をする。	26		
	③ 保育者は受容と励ましによって乳幼児の言葉と行動、試行と感情を支持してあげる。	26		
	④ 保育者は暴力的な言葉、非難、嘲笑等の否定的な言葉を使用しない。 ※4個すべて充足すればY評定	26		
2	保育者は乳幼児に差別なく接する			
	① 保育者は乳幼児の社会・経済的地位、文化的背景、宗教、人種、性別、身体的能力について差別的な言葉と行動をとらない。	26		
	② 保育者は乳幼児の外貌、身なり、性格、行動などを評価しない。 ※2個すべて充足すればY評定	25		1
1-2	保育計画樹立及び実行			
1	「保育所保育指針」を土台として自園の保育理念を反映した保育計画を樹立している。			
	① 「保育所保育指針」を土台として自園の保育理念を反映した保育計画を樹立する。	22		4
	② 乳幼児の興味と欲求を反映した月間または週間または一日保	26		

	育計画をクラス別に樹立する。 ※2個すべて充足すればＹ評定			
2	乳幼児があたたかな雰囲気で日常経験ができるよう運営する。 ① 登園時乳幼児を喜んで迎えて、降園時安定した雰囲気で降園できるよう指導する。 ② 食事と間食時間に騒がないで落ち着いて食べることができるよう指導する。 ③ 乳幼児の年齢(月令)、個人差を考慮して、排便経験が個別的にその子どもの体質やリズムにあわせて行われるよう指導する。 ④ 乳幼児の個別的な特性に合わせて平安に眠れるよう環境と雰囲気を準備すること。 ※4個すべて充足すればＹ評定	26 26 26 26		
3	一日の日課において乳幼児の自由遊びが十分に行われるようにする。 ① 毎日室内自由遊び時間を基準時間以上に設定して運営している。 ・6時間以下利用(マチュム組乳児):毎日1時間以上 ・6時間超過利用(全日組乳児、幼児):毎日2時間以上 ② 日課を時間単位で分節して学校のように教科ごとの活動を進行していない。 ※2個すべて充足すればＹ評定	19 21	1	6 5
4	外遊び時間を毎日十分に配定して運営している。 ① 毎日外遊びを基準時間以上に配定して運営している。 (乳児)満0歳は週3回、30分以上/満1、2歳は毎日30分以上 (幼児)毎日1時間以上 (障害児専門)週1回以上障害類型，障害程度、発達水準に応じて融通性をもって運営。 ※1個充足すればＹ評定	22		4

1−3　遊び及び活動

	評価項目	Y	N	無回答
1	保育者は遊びと活動が、乳幼児の自発的選択によって主導的に行われるよう支援する。			
	① 保育者は室内自由遊び及び外遊び時間に乳幼児が自由に探索して遊びや活動を自発的にできるよう支援する。 ② 保育者は個別に乳幼児が好む遊びと活動を、主導的に進行する	26 26		

	よう配慮する。 ③ 乳幼児が遊びに自発的に興味を持つことができるよう支援する。 ※3個すべて充足すればYで評定	26		
2	保育者は乳幼児の遊び状況を観察すると共に、遊びと関連した相互作用を行う。			
	① 保育者は室内自由遊び及び外遊び時間に、遊びと活動が行われている場所全体を把握しながら、乳幼児の遊び進行過程を把握する。 ② 保育者は乳幼児の遊び状況を観察しながら、遊びと関連して適切な支援をする。 ③ 保育者は乳幼児の遊びと活動に楽しく参加する。 ※3個すべて充足すればYで評定	26 26 26		
3	乳幼児の多様な遊びと活動に必要な資料を提供する。			
	① 保育者は乳幼児の年齢、発達水準、事前経験を考慮して、遊び及び活動資料を準備する。 ② 現在行われている遊び及び活動に必要な資料を提供する。 ③ オモチャと活動資料は乳幼児が容易に取り出して使用できるよう配置する。 → 未満児は安全面を考慮して、容易に取り出すことができないが、以上児はおりがみやレゴブロックなどを資料をできるようにしている。 ※3個すべて充足すればYで評定 見方が分かれている。選択Yが妥当。	20 19 8	11	6 7 7

1－4　乳幼児の相互作用支援

	評価項目	Y	N	無回答
1	保育者は、乳幼児の感情に共感して、乳幼児が自らの感情を受け止めるように助ける。			
	① 乳幼児が不安定な情緒を表現するとき、そのまま受容して安定感を感じるよう反応する。 ② 乳幼児の情緒状態や気分を把握して言語的、非言語的に反応して受容する。 ※2個すべて充足すればYで評定	26 26		
2	保育者は乳幼児が日常で自分の意見、考え等を友達と話し合えるよう支援する。			
	① 保育者は乳幼児が自分の感情や考えを友達と話し合えるよう支援する。 ② 保育者は遊びや活動状況で、子どもが友達と学びあえるよう、乳幼児間の相互作用を見守る。	26 26		

	※2 個すべて充足すればＹで評定			
3	保育者は乳幼児が適切な約束と規則を守るよう支援する。	22	3	1
	① 組別に乳幼児の年齢と発達水準に適合する最小限の約束と規則がある。→「ありがとう」「ごめんね」などの最小限の約束はできているのできっちり決める必要はないのではないか、資料があるわけではない 保育者は乳幼児が約束と規則を自律的に守るよう、自らが気づけるように繰り返し丁寧に関わり、見守る。 ※2 個すべて充足すればＹで評定			
4	保育者は乳幼児の争いや問題が発生した場合、多様な解決方式を使用する。			
	① 保育者は乳幼児間の争いや問題状況が発生しないよう、オモチャと空間を十分に確保する。 ② 乳幼児間の争いや問題状況が発生した場合、お互いの気持ちを受け入れつつ、年齢に適合した支援をする。 ※2 個すべて充足すればＹで評定	22 26		4

1−5　保育課程評価

	評価項目	Y	N	無回答
1	保育日誌に、一日の日課及び遊び事項について評価する内容があって、必要な場合評価内容を、次の保育計画に反映する。			
	① 保育日誌に、乳幼児の一日の日課と遊び実行についての評価記録がある。 ② 保育日誌に評価した内容を必要な場合、次の保育計画に反映している。 ※2 個すべて充足すればＹで評定	19 19		7 7
2	個別乳幼児の日常生活、室内外遊び活動についての観察内容を記録して、乳幼児の発達特性と変化を評価する。			
	① 日常生活、遊び、活動で個別乳幼児の反応と行動を観察して記録する。 ② 乳幼児の観察結果を活用して、乳幼児の発達特性と変化の程度についての総評を年２回以上記録する。→月案等・個人記録として残している。 ③ 乳幼児の評価結果を乳幼児の遊び支援、父母面談などに反映している。→気になる子は、個別で必要に応じて面談などを行っている。 ④ (障害乳幼児) 個別障害乳幼児の教育診断と発達評価のための診断・評価道具及び参考資料を具備して活用している。 ※３個すべて充足すればＹで評定　※(障害乳幼児)４個すべ	26 15 15 15	6 4	5 7 11

	て充足すればＹで評定			
3	園長はクラスごとの保育計画について把握している。			
	①園長は、各クラスの保育についての評価を実施している。 ②園長は各クラスの保育評価を、全体的な保育の計画に反映している。 ※2 個すべて充足すればＹで評定			

2 領域　保育環境及び運営管理

2-1　室内空間構成及び運営

	評価項目	Y	N	無回答
1	保育室内の環境は、乳幼児の年齢及び発達特性を考慮して、乳幼児の遊びと連携して構成する。			
	① 保育室は、乳幼児の年齢、発達特性、保育の計画を反映した室内環境で構成されている。 ②室内環境は、乳幼児の遊びが妨害されない程度の大きさで構成されている。→ 現状すでに変えられない…(例)柱 ※2 個すべて充足すればＹで評定	26 20	2	4
2	室内施設及び設備が乳幼児の発達水準に適合する。			
	① 室内施設及び設備が乳幼児の年齢及び体に適合した大きさと高さとなっていて、乳幼児が自分で使用するのが容易である。 ② (乳児)おむつ交換、授乳時のための空間が準備されていて、該当空間に授乳とおむつ交換時、必要な品物を配置して使用している。→ できているのではないか… ※2 個すべて充足すればＹで評定　授乳室なし。	22 25	4 1	
3	乳幼児の欲求を充足する保育室以外の別途の空間を準備している。			
	① 乳幼児の欲求を充足する保育室以外の別途の空間(遊戯室、図書空間、養護空間、食堂等)が園内に２カ所以上準備されている。 ② 保育室内乳幼児の休息空間がある。 ③乳幼児の個別物品を保管することができる空間が準備されている。 ※3 個すべて充足すればＹで評定	26 22 25		4 1
4	備品と活動資料を保管する別途の空間があって、体系的に整理されている。			

無回答

	① 備品と活動資料を保管する別途の空間があって、体系的に分類基準によって名称、内容、関連領域等を表示して保管している。 ※1 個すべて充足すればＹで評定	22		4

2−2 室外空間構成及び運営

	評価項目	Y	N	無回答
1	屋外遊び場等を備えている。			
	① 屋外遊び場が設置されている。 ②屋外遊び場が設置されていない場合、代替あそび場を利用している。 ※2 個すべて充足すればＹで評定	26 15		11
2	乳幼児の発達を支援する多様な遊び及び活動資料が準備されている。			
	① 乳幼児の発達を支援する多様な遊び及び活動資料が準備されている。 ②遊び器具または遊び及び活動資料は乳幼児発達に適合した大きさと機能を備えている。 ③自然を経験することができる外遊び場環境が準備されている。 ※3 個すべて充足すればＹで評定	21 21 25		5 5 1
3	乳幼児の発達に適合する多様な外遊び及び活動が行われている。 ※2 個すべて充足すればＹで評定			
	① 外遊び時、乳幼児の発達に適合した多様な遊びと活動が行われる。 ② 外遊び時、自然と親しむ経験が行われる。	22 22		4 4

3領域 健康・安全

3−1 室内外空間の清潔及び安全

	評価項目	Y	N	無回答
1	室内外空間を清潔で快適に管理する。			
	① 室内外空間を清潔に維持する。 ② 室内外オモチャを清潔に維持する	26 26		

	③ 個別寝具を清潔に維持する。 ④ 室内外空気の質、温度、湿度、採光、照明を適正に維持する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	25 26		1
2	室内外空間と設備を危険要因なく安全に管理する。			
	① 玄関ドア、出入り口、正門、窓、床、壁面を危険要因のないように、安全に管理する。 ② 室内外空間の固定式または移動式施設・設備、電気設備などを危険要因なく安全に管理する。 ③ 洗面台、清水器の温水使用を危険要因なく安全に管理する。 ④ 乳幼児が、成人が主に使用する室内空間に出入りしないように管理する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	26 26 26 26		
3	室内外空間のオモチャ及び活動資料を安全に管理する。			
	① 保育室内オモチャ及び活動資料を安全に管理する。 ② 室内外空間に配置されたオモチャ及び活動資料を安全に管理する。 ③ 保育室内を安全に保管・管理する。 ④ 室内外空間を安全に保管・管理する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	26 26 26 26		

3−2 給食・間食

	評価項目	Y	N	無回答
1	栄養バランスを考慮した給・間食を提供している。			
	① 栄養士が作成した献立表に従って給・間食を提供する。 ② 乳幼児の年齢特性を考慮した給・間食(量・大きさ・味・調理形態等)を提供する。 ③ インスタント食品より自然食品中心で、給・間食を提供する。 ④ 食品アレルギー疾患に対する指針を準備して実行する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	21 23 23 23		5 3 3 3
2	食材の購入・保管および調理空間を衛生的に管理している。			
	① 食材は新鮮なモノを購入してこれを衛生的に補完する ② 流通機関経過食品(食材等)がない ③ 調理室空間(床、壁、天井等)と調理室内施設・設備(清水台、	23 19 16		3 7 10

	調理台、食器収納棚、ガスレンジ、ポット、環風器、厨房家電等)を清潔に維持する。 ④ 食器類(コップ等)と調理室備品(調理道具、布巾等)を衛生的に管理。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	23		3
3	調理及び配食過程を清潔で衛生的に管理している。	23		3
	① 調理が衛生的に行われている。	23		3
	② 配食過程が衛生的に行われている。	23		3
	③ １回調理された食物は当日消費して、再配食しない。	23		3
	④ 飲み物、牛乳等を衛生的に管理する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	23		3

3−3 健康増進のための教育及び管理

	評価項目	Y	N	無回答
1	手洗い、うがい等清潔な衛生習慣を実践する。			
	① 保育者は手を洗うべき状況で必ず手を洗わせる。	18		8
	② 乳幼児は、手洗いすべき状況では必ず手を洗う。	17		9
	③ 保育者は乳幼児が排便後、後処理を衛生的に行う。 ※3 個中２個以上を充足すればＹで評定	18		8
2	保育者は乳幼児の健康状態を調べてみて適切に支援する。			
	① 痛がったり、けがをしたりした乳幼児についての対応方針を作成する。 → その時の状況に応じて対応している。マニュアル要検討。	9	9	8
	② 保育者は日課中、乳幼児の健康状態を注意深く調べてみて、適切に措置する。	26		
	③ 投薬依頼書を管理して保護者に投薬報告をする。	26		
	④ 非常薬品を用途別に準備して、有効期間内に管理する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	26		
3	乳幼児と保育者の健康増進のために、予防管理と教育を実施する。	9	3	14
	① 個別乳幼児の健康検診書類、応急措置同意書を作成・管理。 → いざという時 どうすればいいかの確認は誰で確認できている。	12	6	8
	② 乳幼児と保育者を対象に、多様な健康及び栄養教育を実施。	23		3
	③ 保育者の健康検診が定期的に行われる。	12		14
	④ 乳幼児及び保育者に対する感染病管理マニュアルを樹立して実践する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定			

クッキング保育が野菜の収穫をして食育活動はできているのではないか……

ex) 三大栄養素の表をもとにシールをはったりする

3−4　登・降園の安全

	評価項目	Y	N	無回答
	乳幼児の登降園の安全に関すること			
	① 乳幼児の引継ぎ過程についてのマニュアルが樹立されている。 ② 乳幼児の送迎者を、入園時に確認している。 ③ 保育者は毎日日課を開始する時、乳幼児の登園可否を確認する。 ④ 乳幼児の引継ぎが規定に従って安全に行われる。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	21 26 26 22		5 4
2	乳幼児の登園から降園までおとなの責任のもとにある。			
	① 保育者は乳幼児の安全のために常に全体状況を把握する。 ② 保育者は日課や場所が変わるときごとに全体乳幼児を確認する。 ③ 統合保育時担当教師は担当乳幼児の人員と特異状況を把握する。 ④ 乳幼児をおいて席を離れる時には、責任ある成人に引き継ぐ。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	26 26 22 26		 4

3−5　安全教育と事故予防

	評価項目	Y	N	無回答
1	乳幼児を対象に安全教育を持続的に実施している。			
	① 乳幼児を対象に発達に相応しい安全教育を定期的に実施する。→ その都度個別で伝えることが出来ている ② 乳幼児が定期消防避難訓練に参加する。未満児も身振り手振りで伝えていく。 ③ 乳幼児がオモチャ及び活動資料、遊び器具を安全に使用するように指導する。 ④ 季節及び天候関連遊び安全マニュアルを遵守する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評定	18 26 26 21	4	4 5
2	保育者は安全教育を受けて乳幼児虐待予防指針を遵守する。			
	① 保育者を対象に基本的な安全教育を定期的に実施する。(乳幼児虐待予防教育包含)	17	9	

	② 非常時における保育者の行動と業務分掌が体系的に樹立されていて、保育者は自身の役割を熟知している。 ③ 応急措置(心肺蘇生術)関連教育に参加した保育者がいる。 ④ 乳幼児虐待予防指針(処罰禁止を含む)を遵守する。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評価	23 26 25	2	1
3	安全設備を非常時効率的に使用することができるよう管理している。			
	① 非常時に使用する避難設備(非常口、非常階段または乳幼児用滑り台、避難具、誘導灯等)を非常時円滑に退避できるよう管理している。 ② 非常事態に使用する消火設備(消火器等)を非常時最大に作動させるよう管理している。 ③ 非常事態を使用する警報設備(単独警報型感知器、ガス漏れ警報器等)を非常時最大に作動させるよう管理している。 ④ 保育者は安全施設及び設備(消火器等)の使用法を熟知している。 ※4 個中３個以上を充足すればＹで評価	26 25 25 26		1 1

訓練では、できているのではないか…
→ ぬきうちでやってみてもいいのでは!
臨機応変にやってく。